

博士課程教育リーディングプログラム  
採択プログラムに係るフォローアップについて（案）

博士課程教育リーディングプログラム委員会

1. 内容

事業目的の着実な達成に資するため、採択プログラムを実施する大学（以下、「実施大学」という。）に赴き、学生を含む関係者との質疑応答及び教育現場の視察等を行うことにより、プログラムの進捗状況を適切に把握・確認するとともに、必要に応じて、指導・助言を行う。

2. 実施体制

- i) 進捗状況の把握及びフォローアップは、博士課程教育リーディングプログラム委員会（以下、「委員会」という。）の類型別審査・評価部会（以下、「部会」という。）を中心に行う。
- ii) 部会は、採択プログラムごとに、フォローアップ担当委員（以下、「担当委員」という。）として、部会委員のうち3名の委員（主担当委員として学界1名、副担当委員として学界1名及び産業界1名）を割り当てる。
- iii) また、担当委員との連携のもとに、各採択プログラム（複数を兼ねる場合を含む。）に対する日常的な進捗状況の把握、相談、助言等の対応を行うプログラムオフィサーを別に置く。

3. 実施方法

① 実施手順

<実施大学>

実施大学は、自己点検評価や外部評価により、プログラムの適正な実施に努めつつ、毎年度終了時に、採択プログラムごとに実施状況報告書（別紙1）を作成し、委員会に提出する。

<担当委員>

- i) 担当委員は、提出のあった実施状況報告書の内容を確認するとともに、適切な時期に、現地を訪問し、実施大学の関係者から説明を受け、質疑応答を行うとともに、教育現場等の視察を行う。その際、支援対象学生からの意見も併せて聴取する。  
なお、産業界の副担当委員については、現地視察に可能な範囲もしくは必要に応じて対応するものとする。また、他の部会委員も任意で現地視察に参加することがあるものとする。
- ii) その結果、以下に示す観点から、採択プログラムが適正に実施されているかどうかを把握し、必要に応じて、指導・助言を行う。
- iii) 現地視察後、フォローアップ報告書（別紙2）を作成し、実施大学の確認を経て、委員会に提出する。

#### <プログラムオフィサー>

- i) プログラムオフィサーは、担当する採択プログラムのプログラムコーディネーターと連絡を保ちつつ、毎年度、必要に応じて機動的に実施大学を訪問し、支援対象学生との対話等を含め、プログラムの進捗状況を確認するとともに、相談、助言等のケアを行う。
- ii) また、担当委員の行う現地視察にも立ち会うものとする。
- iii) 毎年度終了時に進捗状況報告書（別紙3）を作成し、担当委員及び実施大学の確認を経て、委員会に提出する。

#### <委員会>

委員会は、担当委員もしくはプログラムオフィサーから提出のあったフォローアップ報告書及び進捗状況報告書について、その内容を確認し、必要に応じて、コメントを付した上で、実施大学に開示する。

各報告書における意見等への実施大学の対応状況については、部会の実施する中間評価及び最終評価において確認し、評価に反映させることとする。

なお、フォローアップの過程で、進捗状況に著しい問題があると委員会が判断した場合は、支援を縮小もしくは廃止することもありうるものとする。

#### ② 実施大学の関係者（フォローアップ対応者）

- ・ <必須> プログラム責任者及びプログラムコーディネーター
- ・ <必要に応じ> 学長
- ・ <その他> プログラム担当者、支援対象学生、メンター等

#### ③ フォローアップの観点

- i) グローバルリーダーの養成を目的とする事業の趣旨を踏まえ、
  - ・ プログラムの実施・運営体制は適切に構築されているか。
  - ・ プログラムは当初の構想・計画に沿って順調に進捗しているか。特にクオリファイイグザミネーション等、特色ある学位プログラムへの取組が進んでいるか。
  - ・ 審査意見として付した留意事項への対応はなされているか。
  - ・ 実質的な教育内容として、効果が期待できるものとなっているか。もしくは、効果が上がっているか。
  - ・ 事業経費の支出内容は、費用対効果を含め、妥当であるか。
- ii) より適切にプログラムを実施できるようなアドバイスはあるか。

#### ④ その他

実施にあたっては、実施大学、担当委員等の過度の負担とならないように配慮する。

#### 4. 現地視察の実施時期

採択プログラムの実施期間のうち、実行初期段階としての2年目及び中間評価を踏まえた見直し時期にあたる5年目に行う。

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
	現地視察		中間評価	現地視察		最終評価

<現地視察スケジュール例> 概ね4時間程度

- ・担当委員打合せ（15分）
- ・プログラムコーディネーター等からの説明及び  
プログラム担当者・メンター等を含めた質疑応答（90分）
- ・支援対象学生との意見交換（60分）
- ・教育現場（講義など）・施設等の視察（45分）
- ・講評（30分）

5. 公表等

各大学の作成する実施状況報告書における「プログラム進捗状況概要」及び担当委員の作成するフォローアップ報告書については、日本学術振興会ホームページにおいて公表する。

6. 追跡調査

プログラムが事業目的に合致した効果を上げたかを将来的に確認・評価する観点から、実施大学は、プログラムにおける課程修了者のキャリアパスを継続的に把握できる体制を構築するとともに、日本学術振興会からの求めに応じて、その状況を報告する。

博士課程教育リレーディングプログラム  
平成〇〇年度プログラム実施状況報告書(案)

採択年度	
プログラム名	申請大学長名
申請大学名	プログラム責任者名
申請類型	プログラムコーディネーター名

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

2. プログラムの進捗状況

<実施内容>

1. 実施・運営体制の構築状況

【応募時】

①指導・支援体制

②企画・運営・連携体制

③評価体制

【平成〇〇年度実績／進捗状況／応募時からの変更点】

2. 構想・計画の進捗状況

【応募時】

①学位プログラムの内容

②優秀な学生の獲得・学修研究環境

【平成〇〇年度実績／進捗状況／応募時からの変更点】

3. 審査結果における留意事項（プログラム委員会からのコメントにおける改善すべき事項）への対応とその結果  
○改善を要する点

＜平成23年度における対応とその結果＞

4. プログラムの実績

【平成〇〇年度実績】

- ①入学者数（定員）／在学者数（定員）
- ②修了者数（定員）／就職者数（就職先）

5. 事業経費

(単位：千円)

経費区分	内訳	実支出額			交付決定額
		申請大学での 実支出額	共同実施機関で の実支出額	計	
物品費					
	小計				
人件費・謝金					
	小計				
旅費					
	小計				
その他（奨励金）					
	小計				





(案)

## 博士課程教育リーディングプログラムフォローアップ報告書(平成〇〇年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称		申請大学名	
申請大学長名			
プログラム責任者			
1. 進捗状況概要			
<div style="border: 1px dashed black; height: 80px; width: 100%;"></div>			
2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)			
<div style="border: 1px dashed black; height: 80px; width: 100%;"></div>			

(案)

## 博士課程教育リーディングプログラム進捗状況報告書(平成〇〇年度)

プログラムオフィサー氏名：\_\_\_\_\_

プログラム名称		申請大学名	
申請大学長名			
プログラム責任者			
1. 進捗状況概要			
<div style="border: 1px dashed black; width: 80%; margin: 0 auto; height: 80px;"></div>			
2. 実施した支援の概要、助言内容等			
<div style="border: 1px dashed black; width: 80%; margin: 0 auto; height: 80px;"></div>			
3. 課題・意見等			
<div style="border: 1px dashed black; width: 80%; margin: 0 auto; height: 80px;"></div>			